

Humanities Center News Letters

Vol. 03
[2020 December]



[ヒューマニティーズ・リエゾン(HML)]

[HMC研究拠点の移転]

[LIXIL潮田東アジア人文研究拠点(LUI)]

(1) 企画研究／(2) 公募研究A／(3) 公募研究B

[HMCオープンセミナー]

[セミナー・レポート1]

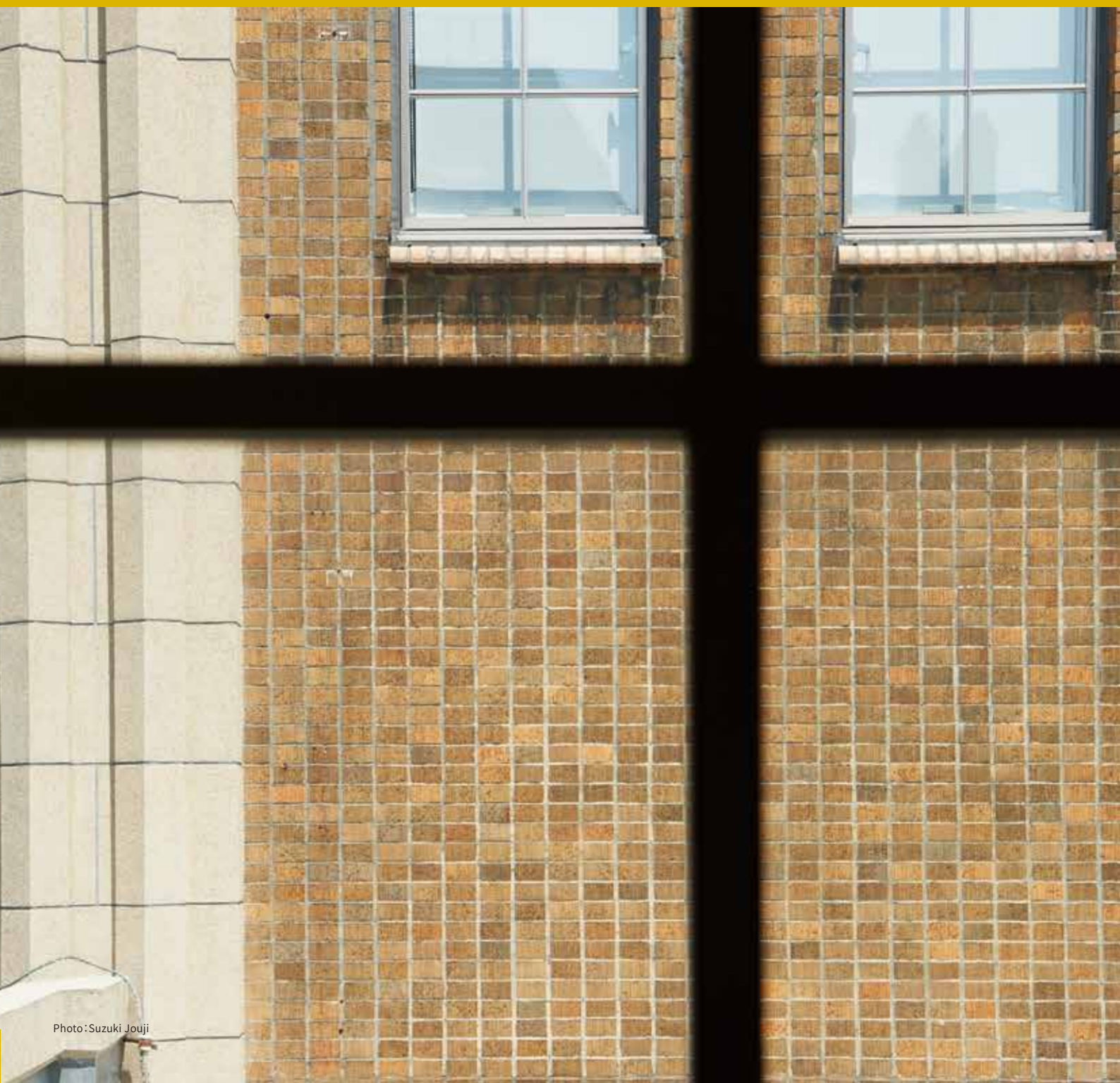
[セミナー・レポート2]

[HMCスタッフの新刊紹介]

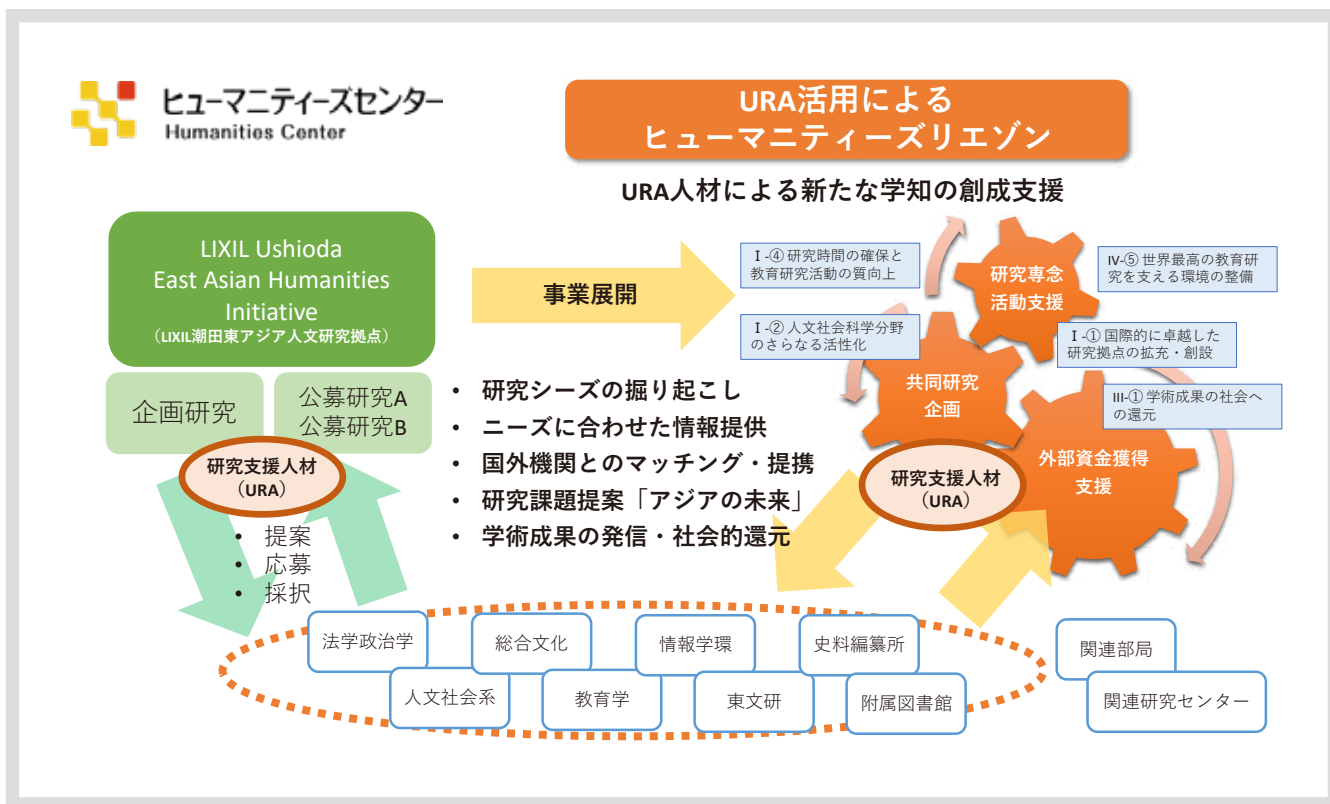
[お知らせ]

[HMC Booklet シリーズ]

[お問い合わせ]



2020年8月より、「URAを活用したヒューマンティーズ・リエゾン (Humanities Liaison : HML)」という新プロジェクトが始まりました。これは、東京大学ヒューマンティーズセンターにおける研究連携支援機能の拡充によって、人文・社会科学分野における研究シーズの組織的な掘り起こしを図るとともに、研究時間の確保、社会への成果還元、研究教育環境の整備等に貢献することを目的とする事業です。



本事業の概要は、以下のような業務を歯車のように噛み合わせながら、包括的な研究連携支援業務を展開させます。

1. ニーズに合わせた情報提供と外部資金獲得支援
2. 国外派遣も含めた若手教員の研究専念活動支援
3. 専門領域を超えた共同研究課題の提案

本事業は、理系との橋渡しもなしうような「研究支援人材 (University Research Administrator)」の研究連携支援拠点をヒューマンティーズセンター内に設置し、人文社会科学分野の活性化に資する装置となることを骨子とするものです。個々の研究者とURAのリエゾン、研究者相互のリエゾン、国外機関とのリエゾン、他分野とのリエゾン、外部資金提供者とのリエゾン等による柔軟で多層的な研究支援ネットワークを構築し、グローバル化時代の課題解決を志向する人文・社会科学研究の推進に寄与することを目指しています。

HML事業の第一歩として、東京大学本部リサーチ・アドミニストレーター推進室が参加しました「研究大学コンソーシアム」(11月13日オンライン開催)のポスターセッションに協力しました。

HMCの基本理念である「研究協創の全学的プラットフォーム」を発展させることが、今後さらに期待されています。





[HMC研究拠点の移転]

HMC 研究拠点が、新しく改築されました東京大学総合図書館4Fの東側に移転しました。



研究スペースの窓外には、三四郎池を取り囲む静かな空間が広がっています。



[LIXIL潮田東アジア人文研究拠点(LUI)]

新型コロナウイルスの感染拡大の厳しい状況が続きましたが、LUI「企画研究」の各種イベント等が再開されています。

(1) 企画研究

学術資産としての東京大学

HMC フェローの鈴木淳教授（人文社会系研究科）が、第5回研究会「学術資産としての工学史料—東京大学の工学史料キュレーション事業と総合研究博物館の取り組み」をオンラインにて開催しました。HMC フェローの尾上陽介教授（史料編纂所）もコメントーターとして参加し、盛会に終わりました。



21世紀における共生の理論と実践

HMC フェローの吉見俊哉教授（情報学環）が、「シンポジウム 封鎖都市と演劇身体 GLOBAL PANDEMIC 2020 の中に如月小春を甦らせる」をオンラインにて開催し、盛会に終わりました。

如月小春氏（1956-2000）はパネリストとして声で登壇しました。本シンポジウムは、映像や音声のアーカイブ資料を通じて過去と対話するオンライン会議となりました。



行動する人の歴史：力はどこからくるか

2020年7月より新「企画研究」として『行動する人の歴史：力はどこからくるか』（代表：松方冬子）が始まりました。史料編纂所の松方冬子准教授が、主としてLUI「公募研究A（個人研究）」経験者を組織し、「権力を生み出す動詞」をキー概念にしながら、日本・アジアからの新しい世界史の構想を目指しています。

研究代表：松方冬子（史料編纂所）

参画教員：稲田奈津子（史料編纂所）、三枝暁子（人文社会系研究科）、永井久美子（総合文化研究科）、井坂理穂（総合文化研究科）、後藤春美（総合文化研究科）、水野博太（HMC特任助教）

研究協力：江口絵理（エディター /ライター）

詳しい活動内容は、

http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fuyuko/kaken/kou dou_rekishi.htmlにも紹介されています。



(2) 公募研究A

連携部局所属教員を対象とする公募制度を通じて、思想、歴史、文学、教育、芸術、建築、生活等にわたる人文学および隣接諸学分野に関して、国外から研究者を長期間招聘して行なわれる共同研究、または個人で行なわれる研究です。

現在、公募研究A（助成期間：2021年10月～2022年9月）は公募中です。受付締切は2021年1月29日（金）です。



LIXIL Ushioda East Asian Humanities Initiative

「公募研究（A）」個人研究助成
(助成期間：2021年10月～2022年9月)

受付締切：2021年1月29日（金曜） 午後5時

申請受付中

【助成対象研究】
本事業は、思想、歴史、文学、教育、芸術、建築、生活等にわたる人文学および隣接諸学分野における研究を助成対象とします。今年度は、建築や生活に関する研究分野からの応募を歓迎します。なお、審査によって、共同研究者として国外から研究者を最長12ヶ月招聘することができます。

【助成金額】
① 研究費500,000円（上限）
② 国外招聘費6,000,000円（上限）
③ 研究専念経費（e.g. 非常勤講師の雇用経費や研究協力者への謝金手当等）として、1,500,000円（上限）が追加配分可能。

東京大学総合図書館内4階 ヒューマニティーズセンター事務局
Tel : 03-5841-2654 (EXT. 22654)
Email : humanitiescenter.utokyo@gmail.com
<https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/news/2020/open-research-2110-2209/>



(3) 公募研究B

日本国外の学術機関に所属する研究者を招聘し、国内で開催される人文学および隣接諸学分野（思想、歴史、文学、教育、芸術、建築、生活等）の国際研究集会を支援する事業です。

現在、公募研究Bは第二次公募中です。受付締切は2021年1月22日（金）です。



LIXIL Ushioda East Asian Humanities Initiative

「公募研究（B）」
国際研究集会開催助成（オンライン開催を含む）

申請受付中

【助成対象】
本助成事業は、**2020年12月1日～2021年3月31日**（第二次募集）に、日本国外の学術機関に所属する研究者を招聘（オンライン開催を含む）し、国内で開催される人文学および隣接諸学分野（思想、歴史、文学、教育、芸術、建築、生活等）の国際研究集会を対象とします。

【助成金額】
1件につき、**500,000円**（上限）

【受付締切】
2021年1月22日（金曜） 午後5時

東京大学総合図書館内4階 ヒューマニティーズセンター事務局
Tel : 03-5841-2654 (EXT. 22654)
Email : humanitiescenter.utokyo@gmail.com
<https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/news/2020/open-research-b-2020/>





[HMCオープンセミナー]

新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み、延期されていましたがオープンセミナーが再開されました。オンライン形式ではありますが、毎回多くの聴講者が活発に議論できる多分野横断型研究活動の「場」が復活しています。



オープンセミナー内容と今後の予定

	題 目	担当者	ディスカッサント等
2020年 6月26日(金)	「声のメディア」をつくる： 大学と社会を結ぶ小さなアーカイブ実践	水越伸 (情報学環)	忠聡太 (福岡女学院大学) 毛原大樹 (ラジオ・アーティスト) 神谷説子 (東京大学大学院)
2020年 7月31日(金)	顔の実験心理学(2):顔では決まらない顔の印象	鈴木 敦命 (人文社会系研究科)	宮崎由樹(福山大学) 大江朋子(帝京大学) 上田祥行(京都大学)
2020年 9月25日(金)	周作人と日本文学	伊藤徳也 (総合文化研究科)	
2020年 10月30日(金)	明治期新聞・雑誌の口絵・挿絵を考える	出口智之 (総合文化研究科)	
2020年 11月6日(金)	定型表現の創出: 徂徠学派の漢詩をめぐって	高山大毅 (総合文化研究科)	山本嘉孝 (国文学研究資料館研究部)
2020年 11月20日(金)	平和活動要員による性的暴力・搾取における近年の動向、 国連とアフリカ連合の協力の枠組みについて	キハラハント愛 (総合文化研究科)	ロシーン・ブルケ (国際法コンサルタント)
2020年 12月18日(金)	博物館の原理に関する研究—空間・集い・経験(2)	新藤浩伸 (教育学研究科)	北垣憲仁(都留文科大学) 今井尚(朝日小学生新聞) 伊藤瑠依(デザイナー)
2021年 1月8日(金)	ドイツ語から見た英語と日本語(仮)	稲葉治朗 (総合文化研究科)	
2021年 未定	賀茂別雷神社文書から見る日本戦国時代の政治と文化(仮)	金子拓 (史料編纂所)	未 定
2021年 3月19日(金) 予定	東アジアのポピュラー文化に関する学術研究と リテラシー育成のためのアーカイブ実践(仮)	水越伸 (情報学環)	蔡如音 (国立台湾師範大学)



アカネズミの「エンカウンススペース」
(都留フィールドミュージアム)

2020年2月7日 17時半～19時半

博物館の原理に関する研究：空間・集い・経験（1）

新藤浩伸（東京大学大学院教育学研究科・准教授）、北垣憲仁（都留文科大学地域交流研究センター・教授）、今井尚（朝日小学生新聞／都留文科大学卒業生）、前田太二（都留市民）、伊藤瑠依（デザイナー／都留文科大学卒業生）

博物館の原理について、近年「コレクション」や「公共性」などの観点からの考察が進められてきた状況に対して、新藤先生は、「空間」「集い」「経験」という概念に着目して研究されています。何らかの意図をもって間仕切られた空間に、人やもの、情報が集い、経験が生まれる。これをコレクション以前の博物館の、さらには博物館を含む文化施設の根幹にある原理と捉え、博物館という存在を構成する原理について考察が進められています。

新藤先生は、上記のような博物館研究を、北垣憲仁先生（都留文科大学教授・動物学）との対話の中で行なっています。北垣先生は、「都留フィールドミュージアム」の運営に関わり、動物、地域、人を「みる」ことを重視し、博物館の根本原理について考察を深めてきました。本セミナーでは、北垣先生、および都留フィールドミュージアムに関わってこられた今井尚氏、前田太二氏、伊藤瑠依氏も参加され、活発な議論が行われました。

なお、都留文科大学地域交流研究センターでは、機関誌『フィールド・ノート』を発行しています。その制作秘話も本セミナーで聞かさせていただきました。

2020年6月26日（金）

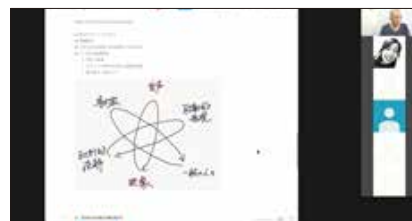
「声のメディア」をつくる：大学と社会を結ぶ小さなアーカイブ実践

水越伸（東京大学大学院情報学環・教授）、忠聡太（福岡女学院大学・専任講師）、毛原大樹（ラジオ・アーティスト）、神谷説子（東京大学大学院学際情報学府・博士課程）

長い間、大学の研究成果は論文や本のかたちで出版されてきました。大学の人文社会系の多くの授業では、活字化された知識を読み解くことを中心に進められてきたといえます。

しかし、わたしたちは学会やゼミで、人と顔を合わせ、声を交わし合うことによって学び合い、知識を生み出し、伝承してきたことも、また事実です。学会やゼミの大切な知見が懇親会の席で語られることはよくありますが、しかしそれらはほとんどの場合、雲散霧消してしまいます。水越先生は、メディア論、文化研究の領域で交わされる議論やエピソード、ストーリーテリングなどを、ラジオのような録音構成の作品としてオンラインにアーカイブし、研究者のあいだで共有し、また、青少年を中心とする一般の人々のための教材として活用してもらう活動を進めてられました。

本セミナーでは、水越先生をはじめ、福岡女学院大学の忠聡太先生、ラジオ・アーティストの毛原大樹氏、東京大学学際情報学府博士課程の神谷説子氏が各々の研究成果を報告され、上記の活動の概要を紹介するとともに、新型コロナウイルスの感染拡大の影響のもとでオンライン教育や学習が新たな意義を持ちつつある現在において、学問における「声のメディア」の可能性と課題についても提案されました。HMCオープンセミナー初のオンライン開催となり、約50名の聴講者が参加されました。



オンライン開催のセミナーの様子



共同研究者のエヴァ・ツァイ氏（国立台湾師範大学）とのストーリーテリングの様子



[HMCスタッフの新刊紹介]



社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化

ISBN：9784326248513
出版年月：2020年10月
判型・ページ数：四六判・240頁
定価：本体3,000円＋税

HMCフェローの中島隆博教授（東洋文化研究所）、吉見俊哉教授（情報学環）、佐藤麻貴HMC特任助教が編者となった『社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化』が、勁草書房より刊行されました。



環境倫理学

ISBN：9784812219348
出版年月：2020年10月
判型・ページ数：A5・274頁
定価：本体2,300円＋税

佐藤麻貴HMC特任助教が分担執筆となった『環境倫理学』（吉永明弘・寺本剛編）が、昭和堂から刊行されました。



子どものための 哲学教育ハンドブック

ISBN：9784130513562
出版年月：2020年11月
判型・ページ数：A5・400頁
定価：本体4,500円＋税

佐藤麻貴HMC特任助教が分担訳者となった『子どものための哲学教育ハンドブック』（M・R・グレゴリー、J・ヘインズ、K・ムリス編、小玉重夫監修、豊田光世・田中伸・田端健人訳者代表）が、東京大学出版会から刊行されました。



Habits

Pragmatist Approaches from
Cognitive Science,
Neuroscience, and Social Theory

ISBN：9781108498449
出版年月：2020年12月
15.19 x 2.69 x 22.91 cm
Hardcover £94.21

佐藤麻貴HMC特任助教が分担執筆となった『Habits: Pragmatist Approaches from Cognitive Science, Neuroscience, and Social Theory』（Edited by Fausto Caruana and Italo Testa）が、Cambridge University Pressから刊行されました。



扉の向こうの帝国―「イースタン・バンク」発生史論

ISBN: 9784779514999 / 出版年月：2020年10月
判型・ページ数：A5・438頁 / 定価：本体6,000円＋税

川村朋貴学術支援職員が執筆した『扉の向こうの帝国―「イースタン・バンク」発生史論』が、ナカニシヤ出版から刊行されました。

[おしらせ]

1

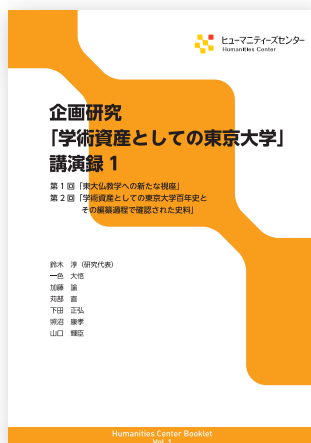
2020年8月1日（土）にオンラインで開催されました
東京大学アジア研究図書館（2020年10月1日開館）の
プレ開館シンポジウム「アジアにおける西洋社会思想の受容と
変容」に、本センターはその主催者の一人として参画しました。

2

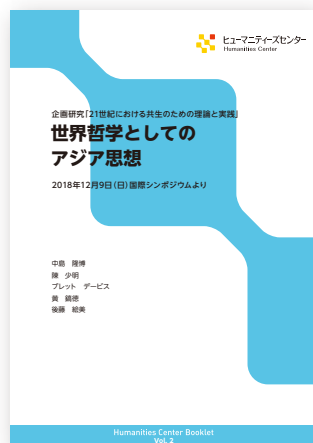
2020年8月8日（土）にオンラインで開催されました
シンポジウム「漢籍デジタル化公開と中国古典小説研
究の展開」（主催：U-PARL、東京大学アジア研究図書館）に、
本センターは開催協力者として参画しました。

東京大学ヒューマニティーズセンターには、人文学及び隣接諸分野に関する新たな研究協創を目指した刊行物として「Humanities Center Booklet シリーズ (ISSN: 2434-9852)」があります。この

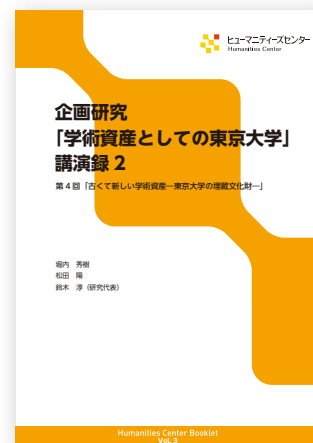
発行は、本センターで最も意の用いられた事業の一つです。これまでに発刊されたブックレットは、以下のとおりです。



Vol.1



Vol.2



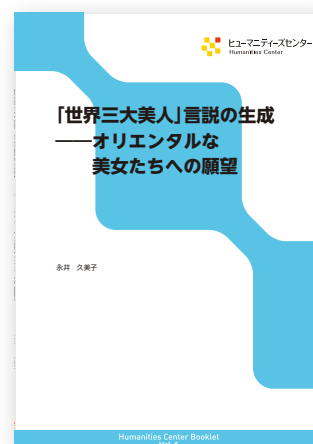
Vol.3



Vol.4



Vol.5



Vol.6



東京大学ヒューマニティーズセンター (HMC)

〒113-8654 文京区本郷7-3-1 東京大学総合図書館内4階
ヒューマニティーズセンター事務局
Tel: 03-5841-2654 (EXT. 22654)
Email: humanitiescenter.utokyo@gmail.com
URL: <https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/>